オトナのための日本語塾

レポート集　2018

武庫川女子大学言語文化研究所　編

まえがき

この冊子は、武庫川女子大学言語文化研究所による「オトナのための日本語塾」（以下、日本語塾）に参加された“塾生”によるレポート集です。日本語塾は、日本語に関心のある人なら誰でも参加できる勉強会です。今年度は、土曜日を中心に 5 回開かれました。参加者がそれぞれ関心をもったテーマで、レポートにまとめて提出してくれます。そのレポート集が、今回で第 4 号になりました。

今回はレポート提出が 3 人に留まりました。残念な思いとともに、レポート提出にまで責任をもって指導できなかったことに強い反省の念を抱いています。それはともかく、4 号目まで出すことができました。なんとかここまで続けてこられたことについて、関係各位に厚く感謝申し上げます。

この 4 年間、塾生の人たちが、それぞれ言語感覚の面で進歩をとげてこられたことは間違いありません。これまでなら何とも思わなかった日常の言語現象に対して、非常に敏感に反応されることが増えました。「最近、流行のこんな言い方は、コレコレの点で昔と違っている」「有名人の〇〇という表現の裏には、××の思いがあるからではないか」などと、ことばに対して深いヨミをなさることが多くなってきました。

このように、言語現象に対して敏感になって、それを分析しようという態度は、人と人との関係を大事にしない人間にはできないことです。周囲の人々に対して関心をもって接して、相手の真意まで汲み取ろうとする気持ちがあって初めてできることだと考えます。この点に関する塾生の人たちの進歩・成長については、塾長としては、かなり嬉しく自慢したい気分でおります。

塾長　佐　竹　　秀　雄

目　次

まえがき　佐竹　秀雄

レポート

接尾辞「こ」の分類　上野　和美　3

「お粗末さまでした」は本当に粗末ですか　高野　啓　11

高校野球と校歌　竹腰　純　15

接尾辞「こ」の分類

上　野　　和　美

１．はじめに

「末っこ」とは、きょうだいのうちで一番あとに生まれた子であり、「いたずらっこ」とは、よくいたずらをする子である。これらの語末の「こ」は、親に対する子であり、大人に対する子である。「江戸っこ」は、「こ」が付いても子どもとは限らず、江戸（＝東京）で生まれ育った人物を指す。つまり子ども時代を江戸で過ごした人という意味である。

しかし、「隅っこ」や「ぺしゃんこ」「にらめっこ」などの語末の「こ」は、どうか。子どもどころか、人物をも指さない。「隅っこ」は意味として「隅」と何ら変わりはなく、わざわざ「こ」を付けなくても事足りる。「ぺしゃんこ」「にらめっこ」は、人物を指さない点では「隅っこ」と同様であるが、「こ」を省いて「ぺしゃ（ん）」「にらめ」と言うわけにはいかない。意味に違いが生じる。同じ和語の「こ」でありながら、これらは語中で担う意味や機能が異なるのである。その差は一体何なのか。

以上のような疑問を抱き、「こ」について調べてみることにした。接尾辞「こ」の用法を明らかにし、語の中で担う意味や役割を知ることが目的である。さらに、同じ音の和語である以上は、それらの用法に通底する何かがあるようにも感じられ、それを探りたいとも思った。

本レポートでは、辞書やインターネットサイトなどで集めた「こ」の付く語を、前に付く語の意味内容や文法的特性によって分類した。以下、その結果と考察を述べる。

２．１　人物評（「～の（of）子」）の用法

２．１．１　出身

例）　東(あずま)っ子　江戸っ子　神田っ子　土佐っ子　道産子　博多っ子　浜っ子　宮っ子
　　パリっ子 ロンドンっ子　　都会っ子　土地っ子

土地や場所を示す語に付き、そこで生まれ育った人を表す。固有の名詞に付くことがほとんどであるが、「都会っ子」「土地っ子」のように普通名詞に付く場合もある。漢字表記の「子」が多く、例外的に「児(こ)」、女性を指して「娘(こ)」などが使われることもある。たいていは促音「っ」を伴って「○○っ子」という形になる。

人物が地名と結び付く表現としては「○○人」「○○者(もの)」「○○出身者」などがあるが、それらに比べ「○○（っ）子」は軽い響きで、親しみやすく、カジュアルな印象を与える。

また、固有の地名に付く場合、その土地に愛着を感じている人に対してでなければ「○○（っ）子」とは称しにくいだろう。先日、ニューオリンズの街を紹介するテレビ番組で、「ニューオリンズっ子」という言葉を聞いた。ジャズの街に生まれ、赤ん坊の時から音楽

の中で育ったというジャズ演奏者の男性をそのように称していた。ニューオリンズを愛し、帰属意識を持っている、と評価しての呼称と思われる。土地と人物の結び付きに対する肯定的な印象や評価が「〇〇っ子」と言わしめている。

親しみやすい呼び名であることから、学校だよりや、地域の広報誌などの名前にもよく用いられてきた。特に昭和 40 年代頃には、好まれるネーミングの一つになっていたようである。小学校の名前に「っ子」を付けた「〇〇っ子通信」などは、今も多く存在する。

さらに、ラーメン店の名前として「薩摩ッ子」「仙台っ子」「どさん子」「宮っ子」「土佐っ子」「えぞっ子」「浜っこ」、焼酎の銘柄として「壱岐っ娘」「長崎っこ」などが使われている。親近感を与え、地元のものとして広く大衆に愛されるということを狙ってのネーミングだと思われる。決して、懐石料理の店や日本酒の大吟醸の名前には用いられない。また、地名にしても「霞が関」や「丸の内」などは冠しにくいように感じる。中央官庁の代名詞ともなる場所や、日本を代表するビジネス街は、身近で親しみやすい、というイメージとは結び付きにくい。

２．１．２ 性質

例）いたずらっ子　お祖母(ばあ)ちゃん子　鍵っ子　現代っ子　末っ子　駄々っ子　テレビっ子
　　秘蔵っ子　一人っ子　ひよっ子　もやしっ子　雪ん子
　　甘えっ子　いじめっ子　売れっ子　憎まれっ子　ぶりっ子

どのような性質の人物（特に子ども）であるかを表し、漢字で「子」と表記されることが多い。

前に来る語は、名詞、あるいは、動詞（＋助動詞）の連用形であるが、動詞の連用形の場合、それが転成名詞である可能性も否定できない。たとえば「いじめっ子」は、動詞の「いじめる」に「子」が付いたとも、名詞に転成した「いじめ」に「子」が付いたとも考えられる。どの段階で「子」が付き、語として定着したのかということに関わるので、どちらかを判ずるのは難しい。

修飾する語がモノを表す名詞の場合、誰が聞いても意味がわかるようなものと、そうではないものとがある。「鍵っ子」や「もやしっ子」は、時代の世相を映した流行語であるので、一定の世代以上でないと察しがつかないと思われる。「鍵」は「共働きの親を持つ子ども」(『三省堂国語辞典』第六版）の象徴であり、「玄関のかぎを子どもに持たせること」から生まれた俗称である。「もやし」は「都会育ちの、ひょろひょろして体力のない子ども」の比喩である。「鍵っ子」も「もやしっ子」も、昭和 40 年前後の高度経済成長期に普及した都市型生活を背景に持つ語といえる。

前に付く語が動詞（＋助動詞）の連用形や、動詞が転成した名詞の場合は、圧倒的に意味がわかりやすい。たいていは、何のひねりもなく、意味をそのまま伝える。例外は「ぶりっ子」であろう。「ぶりっ子」は、「かわいい子ぶる」や「いい子ぶる」などの振る舞い

をする（若い）女性を指す語である。昭和 50 年代半ばに生まれた流行語で、人気漫画やアイドル歌手、コメディアンの影響などで広まった。それ自体が接尾語である「ぶる」が名詞になり、意味が特化され、独立したような語である。大もとが「振る」という動詞であっても、聞いてすぐに意味がわかる語とはいえまい。

人物像を表すこの用法において、特筆すべきは、「こ」を付けることによって印象が変わるという点である。たとえ「憎まれる」「いじめる」など負のイメージを持つ語を使っても、「こ」が付くと人物像としての深刻さは薄れる。「憎まれっ子」は「憎まれ者」よりも憎まれ度が低いと感じるのではないか。「こ」という響きの軽やかさや、「子（ども）」であることのかわいらしさによって、さほど酷い人物ではないような印象を与える。昨今の社会問題である「いじめ」においても、いじめた側の人間を指して「いじめっ子」と言うのは、あまり聞かない。「いじめの加害者」などと表現している。「いじめっ子」では深刻さが薄れてしまうので、避けているものと思われる。

２．１．３ 同格

例）甥っ子　小僧っ子　ちびっ子　娘っ子　嫁っ子

どのような人物であるかを表す語に「こ」が付くという点では、「出身」「性質」を表す「こ」と同じであるが、「こ」がなくても意味が通じるという点で異なる。「こ」の前の語は名詞で、「子」と漢字表記されることが多い。

「甥っ子」は「甥である子」、「小僧っ子」は「小僧である子」であり、「甥」「小僧」と表現すれば意味としては十分である。しかし、「こ」を加えることで言葉の調子やニュアンスが変わる。音の響きから、軽やかさや親しみやすさ、かわいらしさなどが伝わる。話し言葉的であり、改まった文には用いられない。

また、前に付く名詞である人物は、親愛の情の対象となり得る目下の者である。「甥」も「娘」も「嫁」も、慈しんだり、かわいがったりするのに不足はない。畏れや敬いの対象となる「女王」や「大臣」、「師匠」とは違う。親愛の情をかける可能性のある語に、さらに「こ」を付けて、実際に親愛の情を抱いていることを示しているのである。

２．２ 整調（＝tuning）の用法

２．２．１ 特定化

例）餡こ　隅っこ　根っこ　端っこ

〈整調〉の用法は、人物以外のものに付いて、音の調子を整えたり、かわいらしさのニュアンスを加えたりする働きを持つ。中でもこの〈特定化〉は、2.1.3 に挙げた〈同格〉の「人物以外のパターン」といえる。「こ」の表記はひらがなが一般的で、前に付く語は名詞である。「こ」がなくても意味は通じ、「餡であるもの」が「餡こ」であり、「隅であるとこ

ろ」が「隅っこ」である。話し言葉的であり、改まった文には用いにくいという点も、〈同格〉の「こ」と同じである。

「隅」や「根」「端」は、それぞれ「炭」「墨」、「値」「音」、「橋」「箸」という同音異義の和語、つまり別語がある。「こ」が付くと音声的に安定し、同音衝突も回避できるというメリットが生まれる。単音節語の「葉」や「田」が「葉っぱ」「田んぼ」と言い表されるのと同様である。幼児語的な響きがある点も「葉っぱ」「田んぼ」と共通している。

では、なぜ「炭」「墨」、「値」「音」、「橋」「箸」でなく、「隅」「根」「端」に「こ」が付くのか。それについては、「隅」「根」「端」がそれぞれ、位置関係の対立する語を持っているということに関わりがあると思われる。「隅」「端」には、対立する位置関係の語として「真ん中」や「中央」がある。「根」には「花」や「実」がある。「隅」「根」「端」は、どれも通常、注目を浴びるところではない。光の届かない隠れた部分であり、いわば卑小なものである。それこそが「こ」との親和性を生み出しているのではないだろうか。目立たないところであるが故に、「ここ（これ）がそうだよ」と指し示すようなニュアンスで用いられる。立派ではないけれども愛着が感じられる、そのような要素を持つ対象に付く「こ」といえる。

「餡こ」の「餡」は、同音の「案」や「庵」と混同するような場面は実際にはなさそうだが、そもそも単音節の語である。音声的に落ち着かず、「餡こ」という方が安定する。また、愛着や親しさを感じる身近な食べ物でもある。この「こ」もまた、かわいらしさ、卑小さに通じるものである。

２．２．２ 東北地方の方言

例）飴っこ　銭っこ　どじょっこ　ふなっこ　虫っこ　雪っこ　わらしっこ

「どじょっこ」「ふなっこ」は、童謡[1]の歌詞に登場する語として知られるが、この「こ」は東北方言である。方言として「こ」を付けるので、〈整調〉用法の一種と見なすことができるだろう。

西垣幸夫（2005 年）によると、東北方言の語法の特徴として「名詞に接尾語の『コ』を付ける」現象がある。「親しいもの、愛らしいもの、古いもの、身近にあるものなどに付け、これらのいずれかの要素が欠けると『コ』を付けないのが普通」で「銭」が「銭っこ」、「お茶」が「おじゃっこ」、「堀」が「堀っこ」になるという。やはり、慣れ親しんできた愛しいものに対して使われるのである。ただ、銭や堀のような無生物のものにも「こ」が付く点は注目に値する。特に堀は、規模の大きいものなので不思議にも感じられる。しかし、昔から存在していて、それなりに愛着もあるような堀なら、「こ」を付けて表現しても違和感はないのだろう。

---

[1] 「どじょっこふなっこ」　秋田に伝わる民謡を岡本敏明が混声合唱用に作曲し、発表した童謡。

東北地方の方言ではないが、蟻のことを「ありんこ」と呼ぶことがある。蟻を擬人化しただけとみれば「甥っ子」や「嫁っ子」の「こ」と同類であるが、「どじょっこ」や「ふなっこ」にきわめて近い使われ方であるともいえる。

２．２．３ 名詞化

例）かちんこ　がちんこ　がっちゃんこ　がっちんこ　ごっつんこ　どろんこ　にゃんこ
　　ぱちんこ　ぶらんこ　ぺしゃんこ　ぺたんこ　ぺちゃんこ　ぺっちゃんこ　わんこ

擬音語や擬態語などに付いて、そのような状態であるもの、または、ことを表す。状態を名詞化させる働きを持つ。小柳智一（2003 年）は「ぺしゃんこ」を「ぺしゃっ」や「ぺしゃり」と対照して、「潰れた結果の平らな状態に重点を置く表現」だと説明している。

表記は、通常、仮名である。前に付く擬音語や擬態語と一体になって、ひらがなやカタカナで表記される。

パチンコやぶらんこ[2]の「こ」は、今や接尾辞として意識されなくなり、「パチンコ」「ぶらんこ」で一語の名詞としての地位を確立している。しかし、そのような語でない場合は、かなりくだけた言い方と認識される。母語話者にとっては五感で捉えられる語であり、書き言葉や改まった場では使いにくい。「わんこ」や「にゃんこ」のように、幼児語とされるものもある。子どもっぽい、卑近な言い方であるが、それが故に、語としてのかわいらしさや親しみやすさが感じられる。

「どろんこ」は、どろだらけになった状態を指すと考えれば、〈名詞化〉であるが、「泥」そのものを指すと考えれば、「根っこ」や「餡こ」と同じく〈特定化〉ということになる。

「こ」のすぐ前の語は、促音「っ」とならず、撥音「ん」となるものが多い。「どろっこ」「がちゃっこ」「ぺちゃっこ」ではなく、「どろんこ」「がっちゃんこ」「ぺちゃんこ」である。地方によっては、撥音とならずに促音となるのかもしれないが、それについては調べがつかない。

２．３ 行為の用法

例）あいこ　当てっこ　言いっこ　うらみっこ　おいかけっこ　教えっこ　かけっこ
　　代わり番こ　抱っこ　取り替えっこ　慣れっこ　にらめっこ　半分こ　まねっこ
　　見せっこ

おもに動詞の連用形に付き、「～すること」「～になること」の意となる。「こと」の縮約形との説があり、「こ」はたいていひらがなで表記される。行為を名称化した用法であるが、その行為には二者以上が関わる場合が多い。

---

[2] 語源はポルトガル語の balanço とする説もある。

「当てっこ」や「言いっこ」「教えっこ」などは、行為に関わる者が、互いに行う（＝し合う）ことを表す。同じ行為を互いにすることから、「合う」を付けて、「言い合いっこ」や「見せ合いっこ」など複合語の形にして使われることもある。

「かけっこ」や「にらめっこ」は、勝敗を決する行為である。二者以上が同じ動作を「し合う」ことから、「競う」意味へと発展していった語であると考えられる。但し、「かけっこ」は「かけ（っ）くら（べ)」から、「にらめっこ」は「にらみ（っ）くら（べ)」から生まれた語ともいわれ、「こと」と「くらぶ」のどちらに由来するのか、あるいはどちらも関わるのか、などの詳細はわからない。しかし、いずれにせよ、二者以上の競い合いであることに変わりはない。「かけ足」は一人でできるが、「かけっこ」は一人ではできない。

「代わり番こ」や「半分こ」は、名詞に「こ」が付いているという点では例外的であるが、「代わり番をする」「半分ずつにする」という行為が名詞化した語であり、その行為にはやはり二者が関わっている。

行為の名詞化ではあるものの、二者以上の関わる行為とはいえない語もある。それには「慣れっこ」や「抱っこ」が挙げられる。「慣れっこ」は「すっかり慣れていること、またそのさま」を表す名詞である。二者以上が関わって初めて「慣れっこ」になる、というわけではない。単に「慣れたこと」が約まったのではないかと思われる。「抱っこ」は「抱くこと、または抱かれることをいう幼児語」で、行為そのものには、抱く側と抱かれる側の二者が関わるが、相互の行為ではない。「抱き合う」とは意味が異なる。「慣れっこ」と同様、単に「抱くこと」が約まった語と考えられる。但し、「抱っこ」は「抱きっ子（児)」から変化した可能性もある。つまり、「抱っこして」は「『抱きっ子』をして」の意であるという見方である。それなら幼児語であることとも合致する。

これらの〈行為〉の用法における「こ」もまた、いとけなさや親しみやすさ、かわいらしさといったニュアンスを聞き手に伝える。たとえ競い合いを表す語であっても、真剣勝負の印象はない。互いにし合う程度で、子どもの遊びのようなものを思わせる。「にらめっこ」と「にらみ合い」とでは、漂う緊張感に随分と差がある。

２．４ 分類から除外したもの；慣用表現

人っ子（～ない）　　わかりっこ（ない）　できっこ（ない）

「人っ子」は、辞書では「『人』を強めていう語」とされる。ならば「人」と「人っ子」との間に意味的な違いはなく、その点だけを見れば同格である。しかし「人っ子」は常に、下に打ち消しの語を伴って「誰ひとり」の意となる。「人っ子ひとりいない」「人っ子ひとり通らない」など、慣用的表現の中で使われる。「人っ子」単独で「人」の代わりにはなり得ない。したがって、分類から外した。

「わかりっこ」「できっこ」も、打ち消しの語を伴って慣用表現となる。「ない」が付いて「わかるはずがない」「できるわけがない」の意で使われる。否定を強調しようとして音

声変化（＝促音化）が起こり、「わかること」「できること」が「わかりっこ」「できっこ」となったのではないかと思われる。これは「～っこない」が話し言葉的であることの理由ともなるが、確かなことはわからない。いずれにせよ、これらも慣用表現であり、単独で用いることはないため除外した。

３．まとめ

接尾辞「こ」には、大きく分けて人物評、整調、行為の三つの用法がある。人物評の「こ」は、どのような人物または子であるかを示す。土地の名前に付いて〈出身〉を表したり、動詞（＋助動詞）や特徴的な名詞に付いてその人物の〈性質〉を表したりする。また、その人物が単に、語り手にとって親愛の情をかけたり、かわいがったりする対象であることを示す場合（＝〈同格〉）もある。

整調の用法では、「こ」は人物以外の語に付いて、言葉の調子を整え、親しみやすさのニュアンスを加える働きをする。身近にある卑小なものを〈特定化〉したり、状態を〈名詞化〉したりする。また、〈東北地方の方言〉として、名詞に「こ」が付くものもある。

行為の用法は、主に動詞に付いて「～すること」を表す。「互いにし合う」という意味が添加されて、同じ動作を交互にしたり、同時にしたりすることを表す場合もある。同時にする場合は、競い合う意にもなる。

用法としては大きく三つに、そしてそれらはさらに細かく分けられるが、いずれに分類される語も、親しみやすさやかわいらしさ、幼さなどを纏う点は共通している。接尾辞「こ」には、語を格式ばらせず、話し手や聞き手に親近感を覚えさせる効果があるといえる。

４．おわりに

接尾辞「こ」の付く語を用法で分けたが、どこに入れるか頭を悩ませる語もいくつかあった。文中で述べた「どろんこ」や「抱っこ」のほかに、例えば「ちびっ子」がある。「ちび」と「子」は同じ意味であるとして〈同格〉に入れたが、動詞「ちびる」に由来する語と考えれば〈性質〉に入れることが可能である。同様に「半分こ」も、「（相手と）半分ずつにする」という観点から〈行為〉の用法に入れたが、「半分」が名詞であり、「二分の一」という状態を表すことを考えると、疑義の生じる余地がある。

さらに、分類のしかたそのものにも、迷う部分が多かった。人物評の〈同格〉は、整調の用法の人物版であるとも考えられる。〈東北地方の方言〉も〈同格〉や〈特定化〉とかなり近い。意味的に重なり合ったり、結び付いたりするものをきれいに分けることは非常に難しかった。

また、接尾辞「こ」が付くと、我々はなぜ親しみやすさやかわいらしさ、幼さを感じ取ってしまうのか、という点も疑問として残った。「こ」を耳にするや、「子」や「小」と結びつけて意味を捉えてしまうせいなのか、「こ」の直前に入りがちな促音や撥音に「軽やかさ」や「かわいらしさ」の響きを感じるせいなのか、そもそも前に来る語に漢語表現が少

ないせいなのか……。「こ」が付くからかわいいのか、かわいいから「こ」が付くのか、といった鶏が先か卵が先かのような問題に陥りそうにもなった。

　とはいうものの、「こ」に対して抱いた疑問は、幾分かは解消できた。境界は曖昧で、重なり合っている部分も多いが、グループ分けの観点は自分なりに整理できたように思う。今後も接尾辞「こ」を持つ語の採取に努め、用法ごとの語例を増やしていきたい。

〈参考文献〉

見坊豪紀ほか編『三省堂国語辞典〔第六版〕』三省堂, 2008 年
小柳智一「ぺしゃり」, 山口仲美『暮らしのことば　擬音・擬態語辞典』講談社, 2003 年
西垣幸夫『日本語の語源辞典』文芸社, 2005 年
松村明　『デジタル大辞泉』小学館, 2018 年
森下喜一『標準語引　東北地方方言辞典』桜楓社, 1987 年

「お粗末さまでした」は本当に粗末ですか

高　野　　啓

１．問題のありか

現在ボランティアとしてＮＰＯ団体の運営する老人マンションの食堂で食事を作って入居者やお客様に提供しています。

あるとき食事を食べ終えた人から「ご馳走様でした」と言われ、私は「お粗末様でした。」と、何も考えることなく応えました。それをそばで聞いていたボランティア仲間から「(わたし達は心を込めて作っていて粗末なものは作っていないので）お粗末様は失礼ではないか」と言われびっくりしました。私が育ってきた家では「ご馳走様でした」に対して、普通は「お粗末さま」と応え、お客様には「お口にあいましたでしょうか」と応えるのは、当たり前に使われている言葉であったので、何の違和感を持ったことがなかったのです。むしろ親近感を持った対応だと思っていました。例えば「行ってまいります」に対して「行ってらっしゃい」と言われるのと同じように、この表現を母の温かさを感じられるものとうけとめていました。

自分の家では当然と考えて言っていることやしていることに対して、失礼なことだと言われたように思えました。相手には悪気が無くても、私にとって自分の生活習慣を否定されたように感じられたのです。彼女に「あなたのお家ではご馳走様に対して何というの」と尋ねると「特別何も言われなかった、しいて言うならば『はい』かな」という答えが返ってきました。そこで、より広く「お粗末さま」に代わって、どのような対応の表現があるのかについて、調べてみたいと思いました。「ご馳走様に対する応え方」についてネットを利用して調べて自分なりに考えてみました。

２．ネットに見る反応

一般の人がネット上で質問の投稿をしたのに対して、一般の人々が自分の考えを投稿するというンターネットサイト「Yahoo!知恵袋」で検索してみました。

(1) 2008 年 9 月「ご馳走様の返事について」

ここでは、「ご馳走様でした」に対して「お粗末でした」と返事することについて、質問者は「謙虚な感じを出したいのはわかるが、失礼な気がする。聞く人によっては誤解しそうな言葉だ。何か他に良い返し方ないか？」という趣旨の問いかけをしていました。

これに対するベストアンサーとして、次のような回答が示されていました

・私も当り前に「お粗末様でした」と言っています。

これは「謙遜」して言っている語なので、本当に「いい加減な、品質の悪い物」という意味ではないことは言われた相手も理解していることです。

日本語の奥床しい・・ビミョーな表現と捉えて下さいね。

(2) 2013 年 2 月「なんでごちそうさまと言うとお粗末様と返すのですか？」
質問の趣旨は、「ごちそうさまをいうとお粗末様と言われるが、「粗末」はあんまりいい意味じゃない。なぜか？」というものでした。これに対するベストアンサーは次のようなものでした。

・「ご馳走様」とは、「結構なお料理をご馳走くださり、ありがとうございました。」という挨拶用語です。また、それに対して、「お粗末様」というのは、提供者が「粗末な料理ですみませんでした。」と謙遜して言う言葉です。
これによく似た使い方で、昔は他人になにかの品を差し上げる時は、「粗末なものですがご笑納ください。」といいました。これは、「つまらない物ですが、（しょうがないなあと）笑って受け取ってくだされば うれしいです。」と言う意味です。 でも、そうは言っても、本当はとてもいい物をさしあげたものです。
これは、多分日本独特の発想法でしょうね。いつも自分はへりくだって、相手をたてて物事をうまくまとめてきたという日本の風習といっていいでしょう。長い封建時代を生き抜いてきた庶民の知恵が今も息づいているといってもよいかと思います。〔後略〕

(1)・(2)のどちらの回答も、「お粗末様」を否定していません。ただし、前者の質問では「誤解をされるおそれがある」との指摘が見られますし、後者の回答からも「お粗末様」と応える発想は今ではやや古めかしい言い方だとのニュアンスもうかがわれます。

３.「ご馳走様」に対する返事と地域

前者の質問「ご馳走様の返事」について、実際にどのようなものが使われているのかを、知恵袋で調べてみました。すると、地域による違いが見られました。例は少ないのですが、大まかに整理すると次のようになりました。

・関西、四国：「よろしゅうおあがり」
（注）京都では「お粗末さんどした」も見られました。
・名古屋、長野：「おそうそさまでした」（御粗惣さまでした）（お早々さまでした）
（注）これはお粗末様に通じるようです。
・東北地方：「なーんもなんも」「なんもだー」

これらをまとめてみると、よろしゅうおあがり系とお粗末様系（「おそうそさまでした」「なーんもなんも」「なんもだー」を含む）に分けられると思いました。
前者は、きれいに食べてくれた相手への褒詞や感謝であり、後者は、料理の作り手が自分を謙遜したものとらえられます。

４.「お粗末様」という言い方

また、インターネットサイト「教えて goo!」では、2008 年 8 月に「お粗末様は素敵な言葉ですか？」というアンケートが見られました。

このアンケートの意図としては、共働きの母が「苦労して作っているのに、お粗末なんて自ら言うなんて、悲しくてやりきれない」と「お粗末様」を嫌っていたので、みんなの感情面での意見を聞きたいというものでした。これに対して 10 人の回答がありました、それをグループに分けてみました。Ａの否定派からＦの肯定派まで、その程度の段階に分けて示しています。

A 食事を提供するために絶たれた命への侮蔑である。

＊「ご馳走様」は料理を作ってくれた人、料理の材料を作ってくれた人、さらには食事のために捧げられた命への感謝だから、その「ご馳走様」に対して「お粗末様」と言うのは、それらの人や命への侮蔑になる。

B 日本的でよいと思うが、今は流行らない。

＊「ご馳走様」は、情緒ある言葉だし日本ならではと誇らしくも感じるが、今は良いものを良いと素直に言う時代だから。

＊現在は”情緒のある日本的な言葉”を肯定する時代ではない。贈りものを「つまらないものですが」と添えるのも今は流行ではない。しかし、そういう言葉をサラリと言える人は言葉（会話）を大事にしている人だと思う。

＊「お粗末様」は日本の美徳・日本らしい表現だと思う。言ってもらうのはよいが、自分では言えない。また、謙遜な姿勢は誤解を招く可能性もある。

C 場合や相手によって受ける印象が違うが、わざとらしい。素直なほうがよい。

＊相手次第だし、場合によっては失礼だと受け止められる。今はもっと素直に言われた方が、好感が持てる。

＊ふだん付き合っている人に言われると「違和感」があるが、「料亭のおかみ」のような人に言われると素直に聞ける。しかし、「謙遜に対するマイナスイメージ（本当はそう思ってないくせに)」があるから素敵とは感じない。

D どちらでもない

＊私は今のところ素敵ともなんとも思いません。

E 日本ならではの謙譲の美徳である。ただし、使うときには問題もある。

＊謙虚な精神を持つ日本人の考え方でよいと思う。しかし、『粗末』は耳障りだ。

＊謙遜を美徳とする日本人ならではの言葉だ。客に対して使うのなら何の違和感もないが、家族に使おうとか、使って欲しいとは思わない。

F そう躾けられてきたので抵抗がない。

＊躾けられてきたから、自分が作り手であった場合は抵抗がない。作り手ではない場合は、「どういたしまして」を使う。

Ａは完全な否定派で、B・C は否定派ですが、「日本的でよい」とか「相手や場面によっ

てはよい」という条件が付いています。また、Fは積極的な肯定ですが、Eは肯定をしつつも、現実の使用には問題点を指摘しています。
「お粗末様」を素敵ではないという人の、『今は流行らない』ということについて私自身振り返ってみても、人にものを差し上げる時には決してつまらないものですがとか粗末なものですが、という謙遜はしません。「自分が気に入ったから差し上げたい、喜んでくださるとうれしい」ということを伝えます。

５．まとめに代えて

ご馳走様に対して私自身を振り返って見ても相手から「おそうそさま」という聞きなれない返事が返って来ればちょっとびっくりすると思います。いろいろな言い回しがありそれぞれの文化があるということを理解することが大切だと思いました。
今回岡山出身の同じ世代の親しい友人にこの話題を話すと「お粗末様」という言い回し自体を知らないという答えが返ってきて驚きました。
自分が当たり前と信じていることもそれぞれの人が育った地域、環境、また時代によって変わってくるということこのレポートを書きながら実感しています。
何よりも「お粗末様でした」は自分が作った料理であるということが前提です。従ってみんなで作る料理に対して私が接待して「ご馳走様」と言われても「お粗末さま」は不適切だと気づきました。アットホームな雰囲気でよく知っている方に言われたのでついいつも使っている言葉が出てきたのでしょう。(「命をいただく」ということについては論点が変わってくるのでここではあえて触れないでおきます。)
これからは誤解を防ぐためにもおいしく食べてくださった相手の方への感謝と健康を喜ぶ言葉を素直に口にしようと思っています。
一人で食事することが増えたこの頃、自分たちの作ったものを「ご馳走様」と言ってくれる人がいることはとても幸せなことだと感じています。

高校野球と校歌

竹　腰　　純

１.はじめに

平成 30 年（2018 年）夏の高校野球は 8 月 5 日から 21 日までの 16 日間、阪神甲子園球場で開催された。全国から 56 校が参加した平成最後の大会が第百回記念大会となり、新調された深紅の大優勝旗を目指し熱戦が繰り広げられた。決勝は大阪桐蔭高校と金足農業高校の対戦となり、大阪桐蔭高校が圧勝、史上初二度目の春夏連覇を飾った。試合終了のサイレンが鳴り響いた後、場内に「ご覧の通り 13 対 2 で大阪桐蔭高校が勝ち優勝いたしました。只今から、優勝いたしました大阪桐蔭高校の栄誉を称え、同校の校歌を演奏して、校旗の掲揚を行ないます」とアナウンスが流れ、「大和平野にそびえ立つ」で始まる同校校歌が銀傘にこだました。

敗れはしたが、稀にみる酷暑の中、地方大会から一人で投げ抜いた金足農業高校のエース吉田輝星投手にも人気が集まった。その金足農業高校のナインが「可美しき郷　我が金足」と体を反らせて熱唱する校歌も注目を浴びた。

また、「やれば出来るは魔法の合いことば」と校歌には珍しいフレーズがある済美高校の学園歌も話題となった。高校野球の歴史を振り返りながら校歌に注目することにした

２．高校野球の歴史

２－１　昭和 20 年まで

第一回大会は大正 4 年（1915 年）8 月に豊中グラウンドで開催されることになり、主催者の大阪朝日新聞は大正 4 年 7 月 1 日の朝刊一面でその開催を告知した。

來る八月中旬豐中に於て擧行

本社主催　全國優勝野球大會

各地代表中等學校選手權仕合

野球技の一度我國に來りてより未だ幾何ならざるに今日の如き隆盛を觀るに至れるは同技の男性的にして而も其の興味と其の技術とが**著しく我國民性と一致**せるに依るものなるべし、殊に中學程度の學生間に最も普く行はれつゝありて、東海五縣大會 關西大會等を始めとし各地に其の聯合大會の擧を見ざるなきに至れり、然も未だ**全國の代表的健兒**が一場に會して潑溂たる妙技を競ふ全國大會の催しあるを見ず、本社は之を遺憾とし茲に左の條件に依り夏季休暇中の八月中旬を卜し全國各地方の中等學校中より**其代表野球團**、卽ち各地方を代表せりと認むべき野球大會に於ける**最優勝校を大阪に聘し豐中**グラウンドに於て全國中等學校野球大會を行ひ以て其選手權を爭はしめんとす(詳細は逐次發表)

一、參加校の資格はその地方を代表せる各府縣聯合大會に於ける優勝校たる事

一、優勝校は本年大會に於て優勝權を得たるものたる事
一、選手の往復汽車又は汽船賃は主催者に於て負擔する事

そして大正 4 年（1915 年）7 月 23 日の朝刊で 8 月 18 日から開催する旨を報じた。

全國優勝野球大會　▽開催期日の決定

大阪朝日主催の第一回全國優勝野球大會は一たび其發表と共に滿天下の好球家をかつて熱狂せしめんとするの盛況を呈したり而して同大會に出陣すべき代表選手を豫選する各地方の野球大會も相次で擧行せられんとするを以て是等の便宜上、全國大會の開催期日を豫定より稍遲らしめ愈八月十八日より五日間(雨天順延)擧行の事に決定せり

第一回大会は 10 校（全国から 73 校参加）が出場、村山龍平氏（朝日新聞社社長）の始球式で始まり五日間行われ、京都二中が秋田中を延長 13 回 2 対 1 でサヨナラ勝ちし優勝した。第百回大会の決勝に金足農業が勝ち進んだが、秋田県の高校が決勝に残ったのはこの第一回大会以来のことであった。この大会で本塁打が一本出ているが、外野の草むらに打球が入り相手選手がボールを探している間に生還するというランニングホームランだった。ボールを探していた選手には申し訳ないが微笑ましいエピソードである。

第二回大会は大正 5 年 8 月 16 日から 20 日まで豊中グラウンドで行われ、慶應普通部が市岡中学を 6 対 2 で破り優勝した。当時の応援風景並びに表彰式の様子が大正 5 年 8 月 21 日の大阪朝日新聞が報じている。

●慶普は天下中學の覇者　對手は早稲田系の市岡中學

大阪朝日新聞主催全国中學校優勝野球大會は去十六日開始以來連日快晴にて日を閲するを四日試合を行ふを十二回にして二十日愈最後の優勝戦を行ふこととなりぬ此日輸嬴を爭うは攝津泉の猛者市岡中學と關東の精鋭慶應普通部にして一は慶應の直系一は現早稲田の強打者佐伯の出身校にして而も年々早稲田のコーチを受けつゝあるもの本日の試合はたゞに東京對大阪の爭覇戦とも見るべきもの市岡勝つか慶應勝つか好球家の興味極點に達したれば朝來相變らずの快晴にして炎熱燬くが如くなるも觀衆は豐中へ豐中へと潮の如く押寄せたり(中略)陣容を見れば市岡方は流石に膝下のこととて其勢ひ雲霞の如く紅旗白旗虹の如く數百のメカホンを揃へてスタンドの左方に控へ慶應方は稍無勢なれども吊鐘太鼓なんどを持出し手に〻慶應と染抜きたる紫地の應援旗を翻して右手のスタンド一面に居烈びたり時移りて午後二時となるや先づ市岡出てシートノックを開始し次で慶應の守備練習あり午後二時十分市岡の先攻を以て優勝戦の幕は切って落され別項の如き成績を以て慶應大勝時に午後四時四十分優勝旗の授與　斯くて優勝したる慶應普通部選手一同は山口主將に導かれ審判席前に整列し委員福井博士より優勝旗を授けられ花輪其他を寄贈を受け意氣揚々として退場したり

第三回大会（優勝校：愛知一中）は箕面有馬電気軌道（阪急電車の前身）の観客輸送能力の問題で鳴尾球場に舞台が変更されたが、三年間は順調に開催された。しかし、第四回大会は思わぬことで中止となった。

大正 7 年（1917 年）8 月 14 日の大阪朝日新聞で延期が告知された。

●全國野球大會延期

十四日大阪鳴尾にて開催の筈なりし全國野球大會は都合により延期し開催日は追つて發表する事とせり尚午後七時より大阪朝日新聞社樓上に於て茶話會を催し規則の打合を了し茶菓の饗應あり午後十時散會したり

三日後の大正 7 年 8 月 17 日には中止が決定された。

全國中學野球大會中止　明年更めて擧行

大阪朝日主催の第四回全國中等學校野球大會は京阪神の三都を初め各地に蜂起せる米騒動のため一時延期したるも目下の重大なる形成に鑒み▲**遺憾ながら**斷然中止する事に決し十六日午前十時各參加學校の監督及びキャプテンの來社を請ひ上野副社長より中止を餘儀なくされし顚末を報告し茲に全く第四回大會を解散せり選手中には秋又は冬期に延期し是非決行されたしと希望する尚もありしが學業の關係上全十四チームを大阪に集むるは▲到底不可能なる事と云ふべく從つて第四回大會は明年更に各地方餘選大會を擧行しその優勝校を集めて擧行する事とし全國大會の優勝旗は規定に依り明年大會迄愛知一中の保管に委ねる事とせり。

第一次世界大戦以降好景気が続く中、米価が急騰、大正 7 年 7 月中旬から富山県で始まった米価急騰に対する暴動が 8 月には全国に拡大、その影響で開催を断念せざるをえなくなった。地方大会を勝ち抜いた 14 校が戦わずして鳴尾球場を後にすることになり、優勝旗は前年優勝の愛知一中が持ち帰った。

米騒動も収まり第五回大会（優勝校：神戸一中）、第六回大会（優勝校：関西学院）、第七回大会（優勝校：和歌山中）、第八回大会（優勝校：和歌山中）、第九回大会（優勝校：甲陽中）と順調に進んだ。第十回大会（大正 13 年）は同年に完成した 5 万人収容できる甲子園球場に舞台を移し、19 校が参加、広島商業が初優勝を飾った。地方大会の参加校も 263 校となり夏の一大イベントとして定着した。

その後、プロ野球でも活躍する澤村榮治（京都商）、川上哲治（熊本工）、藤村冨美男（呉港中）などを輩出、昭和 15 年（1940 年）の第二十六回大会（優勝校：海草中）は、地方大会参加校が 617 校にまで膨らんだ。しかし、昭和 16（1941 年）年 6 月に独ソ戦が始まり戦局が悪化、第二十七回大会は軍隊の大動員による交通機関逼迫の影響等で、軍からの申し入れもあり中止となった。

昭和 17 年（1942 年）7 月 12 日の朝刊で、大会の終焉を嘆いている。

本社主催　全國中學野球大會終止

本社主催の全國中等學校優勝野球大會は、大正四年地方割據の野球界を全国的に統制しつつ、青少年の体位向上と質実剛健なる氣風の涵養を目指して、大阪市郊外豊中球場に第一回大會を開催してより猛暑炎熱のもと、若人が闘魂を燃やし体力を練り、盛夏の全國的行事として各方面の支援をうけつゝ二十余年二十六回の歴史を築き、第一回十地方七十三校参加の大會は、回を重ねて逐年健全なる発展をなし、第十七大會以來、参加六百数十校の多きを算へ、無統制の球界に整然たる体制を與へ、野球道の確立に寄與し來つたが、別項の如く大日本學徒体育振興會が中等學校綜合競技會の中にこれを一種目として包攝するに至り、こゝに歴史ある我社の全國中等野球大會は終焉を告ぐるに至つた。（中略）
茲に全國中等野球大會を終止するに當り、その経過を敍べて大會關係者ならびに創始以來熱誠なる支援を賜はりたる江湖各位の御諒承を請ふ次第である。

朝 日 新 聞 社

２－２　昭和 21 年以降

中断していた大会は早くも終戦の翌年、昭和 21 年（1946 年）第二十八回大会から復活開催されることになった。同年 1 月 21 日の朝刊社告で復活開催を告知している。

全國中等學校優勝野球大會　今夏から復活開催

朝日新聞社主催全国中等學校優勝野球大會は昭和十七年第二十七回大會餘選半ばで中止されたまゝ今日に至りましたが、終戦以來すでに五箇月。スポーツ復興への逞しき機運とともに本社では今夏を期し「全国中等野球優勝大會」を復活開催することに決定しました。衣、食、住、社會生活全般に亙る窮乏殊に食糧事情の極端なる窮迫に加へてスポーツ用具並びに各種資材の甚だしき缺乏、さらに青少年學徒が数年に亙って“スポーツ”から隔離されえてゐた悪條件の数々は大會再開上多大の困難を伴ふことは申すまでもありません。（中略）
スポーツ日本の再建に資するところ少なからざるを信じて疑はぬものであります。各方面におかれても倍旧の御後援を賜らんことを。

第二十八回大会には戦後の混乱下にも拘わらず全国から 745 校が参加した。戦時中に荒れ果てた甲子園球場が使えなかったため、予選を勝ち抜いた 19 校は 8 月 15 日西宮球場に参集、浪華商がエース平古場投手の活躍で優勝した。

翌年の第二十九回大会から甲子園球場に舞台を移し、戦後の食糧不足や、宿舎不足など多くの困難を乗り越えながら、全国から 1125 校が参加、19 校が甲子園に進出、小倉中学が優勝した。第三十回大会（優勝校：小倉高）からは学制改革で全国高等学校野球大会と名称を変更、第三十一回大会（優勝校：湘南高）からは入場行進にプラカードを持った女

子生徒が先導するようになり、徐々に現在のスタイルになってきた。

その後王貞治（早稲田実）、奪三振記録保持者の板東英二（徳島商）、“怪童”尾崎行雄（浪商）、奇跡の大逆転報徳学園、決勝戦が延長再試合となった井上明（松山商）と大田幸司（三沢）の投げ合い、“怪物”江川卓（作新学院）、“アイドル”荒木大輔（早稲田実）、蔦監督率いる“やまびこ打線”池田高校、“ＫＫコンビ”桑田真澄、清原和博（ＰＬ学園）、5 打席連続敬遠の松井秀喜（星稜）、“怪物”松坂大輔（横浜）、決勝再試合となった“ハンカチ王子”斉藤祐樹（早実）と田中将大（駒大苫小牧）との投げ合いなど数々のレジェンドが生まれた。

２－３　校歌演奏

ここまで高校野球の歴史を振り返ってきたが、いつごろから校歌演奏が行われたのだろうか。夏は昭和 32 年（1957 年）の第三十九回大会からである。同年 8 月 13 日の朝日新聞夕刊が報じている。

全国高校野球選手権　第二日

【甲子園発】雨もあがった。甲子園の上には青空がひろがり、アドバルーンが浜風にゆらゆらと揺れる。開会式をすませただけで第一日三試合を雨で流された全国高校野球選手権大会は十三日午前十時、あらためてプレーボール。（中略）　第一試合は前日二回表、4-1のままノーゲームとなった山形南（東北）-坂出商（北四国）とり直しの一戦。前日すばらしいすべり出しをみせた坂出商は、きょうもまた二回山条の適時打で先制の一点。四回、九回にも好打で得点を重ねて二回戦へ初の勝名乗りをあげ、坂出商ナインはホームベースに、スタンド総起立のうちに校歌が演奏された。これは本大会から初めて行われたもの。（後略）

試合終了後の校歌演奏は日本女子初の五輪メダリスト人見絹枝さんの発案で始まった。昭和 3 年（1928 年）アムステルダム五輪陸上競技 800 ㍍で日本人女性初の銀メダルに輝いた日本女子陸上界の草分け的存在である。五輪表彰式後の国歌演奏、国旗掲揚にいたく感動し、中等学校野球大会への導入を提案したとのこと。毎日新聞社勤務であった彼女の提案により、春はアムステルダム五輪の翌年、昭和 4 年（1929 年）第六回選抜中等学校野球大会から校歌の演奏が始まった。夏はそれより 28 年も遅れて採用されたのは、彼女が毎日新聞の社員だったことが影響しているのだろうか。彼女は昭和 6 年（1931 年）に 24 歳の若さで病魔に屈し他界している。当時「人前で太ももをさらすなどあってはならない」などと女子陸上への偏見は激しいものがあり、彼女は病気と同時に偏見とも戦ったようだ。

３．校歌の分析

３－１　語彙調査

校歌が演奏された第三十九回大会以降の優勝校（42 校）の校歌を（一番のみ）ホームページを中心に調査（延べ語数 1417 語）した。度数の多い言葉を紹介する。

「我ら」30 度数（26 校：駒大苫小牧･常総学院･取手二･前橋育英･桐生一･作新学院･花咲徳栄･習志野･帝京･日大三･法政二･興国･明星･東洋大姫路･報徳学園･育英･天理･箕島･智辯和歌山･池田･高知･明徳義塾･西日本短大付･佐賀商･津久見･興南）

「光」14 度数（12 校：駒大苫小牧･前橋育英･作新学院･常総学院･日大三･明星･東洋大姫路･天理･箕島･池田･高知･柳井）

「我が」14 度数（11 校：駒大苫小牧･常総学院･早稲田実･法政二･東海大相模･中京大中京･中京商･大阪桐蔭･浪商･広島商･西条）

「ああ」10 度数（9 校：常総学院･取手二･桜美林･法政二･ＰＬ学園･広島商･明徳義塾･津久見･興南）

「あり」10 度数（9 校：常総学院･帝京･横浜･桐蔭学園･智辯和歌山･箕島･松山商･佐賀商･津久見）

「高し」10 度数（10 校：帝京･早稲田実・ＰＬ学園･明星･明徳義塾･天理･広島商･柳井･西日本短大付･佐賀北）

「母校」10 度数（7 校：前橋育英･習志野･法政二･東海大相模･明星･浪商･佐賀商）

３－２　難語

３－１で調査した 42 校と第百回大会の出場校 56 校の内 54 校の校歌を同様の方法で調べてみた。第百回大会出場校の中に優勝経験高が 10 校あるので実質的には 86 校になる。設立が戦前の学校に文語体の校歌が多いのは予想できたが、戦後設立の学校も同様で校歌に歴史の重みを付加しようとの狙いがあるように思う。それ故、あまり目にしない耳にしない言葉が多くみられる。それらを抽出してみた。

あさぼらけ〔朝ぼらけ〕夜明け。（前橋育英･下関国際･創成館･鹿児島実）

いかづち〔雷〕かみなり。（桐蔭学園）

いおう〔医王〕仏・菩薩のこと。（星稜）

いけんいっせつ〔夷険一節〕順調な時も逆境にある時も節操を変えないこと。（広島商）

いらか〔甍〕かわら屋根。屋根がわら。（八戸学院光星･池田･佐賀北）

うつぼつ〔鬱勃〕心中にこもった意欲があふれ出るようす。（習志野）

えいち〔英知･叡智･叡知〕すぐれた知恵。（旭川大高･習志野･慶應･愛産大三河･大阪桐蔭･東洋大姫路･明石商･池田･西日本短大付）

おうよう〔旺洋〕水量が豊富で、水面が遠く広がっているさま。（銚子商）

おおしい〔雄々しい〕勇ましい。（慶應･熊本星翔）

おのこ〔男〕おとこ。（箕島）

かたおなみ〔片男波〕打ち寄せる波のうち高い波。（智辯和歌山）

がちゅう〔牙籌〕そろばん。（中京商）

かんじょう〔簡浄〕簡単ではっきりしているさま。（中越）

きよう［崎陽］長崎の異称。（創成館）
きょうぼく〔喬木〕高木の旧称。（高知商）
きょっこう〔極光〕オーロラ。（高知商）
きんしゅう〔錦繡〕錦と、刺繍した布。また、美しい織物や衣服。（聖光学院）
ぎんれい〔銀嶺〕雪が積もって銀白色に輝く山。（星稜）
くおん〔久遠〕永遠。（前橋育英・作新学院・明石商・天理・下関国際）
くが〔陸〕陸地。（ＰＬ学園）
くにはら〔国原〕広く平らな土地。広い国土。（花巻東・木更津総合・大垣日大・奈良大付）
くもい〔雲井〕雲のある場所。大空。（日大三）
けいせつ〔蛍雪〕苦労して勉強すること。（大阪桐蔭）
けみする〔閲する〕①調べる。②年月を過ごす。（浪商）
けんこん〔乾坤〕①天地。②陰陽。（熊本星翔）
けんにんふばつ〔堅忍不抜〕つらいことも耐え困難にも心を動かさないこと。（広島商）
こうこく〔鴻鵠〕大きな鳥。（仙台育英）
こうまい〔高邁〕気高く高い理想をもっているようす。（興南）
こごし〔凝し〕岩がごつごつしていて険しいさま。（花巻東）
こんだく〔混濁〕①色々な物が混じって濁ること。②世の中が乱れること。（熊本星翔）
さぎり〔狭霧〕霧。（中京商）
さやけし〔明けし／清けし〕光がさえて明るい。（北照）
さんらん〔燦爛〕光り輝くようす。はなやかなようす。（下関国際）
しかい〔四海〕四方の海。（習志野）
じきょう〔自彊〕自ら努め励むこと。（津久見）
しせい〔至誠〕まごころ。（土浦日大）
しどう〔斯道〕（学芸の）その方面。（仙台育英・広島商）
しとね〔褥・茵〕ふとん。敷物。（東海大相模）
しののめ〔東雲〕夜明け。明け方。（八戸学院光星・中越・池田）
しゅうれい〔秀麗〕他のものより一段とりっぱで美しいこと。（鹿児島実）
しゅと〔首途〕門出。旅立ち。（取手二）
しゅんけん〔峻険〕山が高くけわしいこと。（柳井）
しゅんまい〔俊邁〕才知がすぐれていること。また、そのさまやその人。（中京商）
しょうぶ〔尚武〕武事を尊び重んじること。（柳井）
しらぬい〔不知火〕有明海や八代海で夜間無数の光が明滅する現象。（熊本星翔）
しんしゅ〔進取〕積極的に新しいことを行なうこと。（仙台育英・法政二・興国・津久見）
しんぜんび〔真善美〕最高の理想。認識上の真・道徳上の善・芸術上の美。（前橋育英）
すいじょう〔推譲〕人を推薦して地位・名誉などを譲ること。（報徳学園）

せいし〔青史〕歴史。歴史書。記録。（創成館）
せいそう〔星霜〕年月。（広島商）
せいろ〔世路〕世の中を渡っていくこと。また、渡る世の中。（柳井）
せきしん〔赤心〕うそや偽りのない心。（花咲徳栄）
せきぜん〔積善〕積み重ねてきた善行。（花咲徳栄）
せんこ〔千古〕①大昔。②永久。（銚子商・高岡商）
そびら〔背〕せ。せなか。（西条）
ちとく〔智徳〕智恵と人徳。学識と徳行。（大阪桐蔭・明星）
ちぬ〔茅渟〕和泉国の沿岸の古称。（浪商）
ときわ〔常磐〕①永久に変わらないこと。②葉の色が一年中変わらないこと。（早実）
とつくに〔外国〕①外国。異国。②畿内以外の国。（近大付）
どよもす〔響もす〕声や音を響かせる。（沖学園）
にちりん〔日輪〕太陽。（金足農・前橋育英・下関国際）
はたて〔果たて〕はて。きわまり。（報徳学園）
はじゃ〔破邪〕邪悪を破ること。（大阪桐蔭）
ばんけい〔万頃〕地面または水面が広々としていること。（松山商）
ふえき〔不易〕不変。（銚子商）
ふぎょう〔俯仰〕うつむくことと仰ぐこと。（広島商）
ふみや〔文屋〕①学問をする所。②書物を売る店。（広島商）
へきくう〔碧空〕青空。（習志野）
ほうていばんり〔鵬程万里〕限りなく広がる大海の形容。（高知商）
ほくしん〔北辰〕北極星。（仙台育英）
まさご〔真砂〕細かい砂。（近江）
ますらお〔ますら男〕雄々しい男子。（高知商）
みずえ〔瑞枝〕みずみずしい若枝。（北照）
みずかがみ〔水鏡〕水面に姿が映ること。水面に姿を映すこと。（大阪桐蔭）
みはるかす〔見はるかす〕はるかに見渡す。（花巻東・金足農・羽黒・法政二・佐久長聖・報徳学園・奈良大付）
もろとも〔諸共〕一緒。（佐賀商）
ゆうしん〔雄心〕勇みたつ心。（花巻東・育英・佐賀北）
ゆうこん〔雄渾〕文章などがのびのびと力強いこと。（前橋育英）
ゆうひ〔雄飛〕意気盛んに活躍すること。（ＰＬ学園・藤蔭）
ゆうぶん［右文］学問・文学を重んじ尊ぶこと。（柳井）
りんこ〔凛呼〕りりしく勇ましいさま。（中京大中京・高岡商）
りんれつ〔凜冽・凜烈〕寒気のきびしいさま。（常総学院・箕島）
れいろう〔玲瓏〕くもりがなく美しいようす。（日大三・浪商）

わたつみ〔海神〕海を支配する神。海。大海。（北照）

３－３　校歌とは

日本最初の校歌は明治８年（1875 年）に開校した東京女子師範学校（現お茶の水女子大）である。明治になって教育の門戸が開かれ身分に関係なく多くの生徒が学校に集まるようになった。そこで価値観を統一する手段の一つとして校歌が重要視されることになる。戦前までは校歌の認可制度が存在したが、戦後の教育改革により認可制度がなくなり、文語体から口語体へ親しみ易い歌詞の採用が進むことになる。特に小学校では校歌を作り直す動きが盛んになった。しかし、中学、高校はそれほど進まず、ここまで見てきた通り、現在も古風な校歌が多くみられる。昭和 45 年（1970 年）８月 21 日の「天声人語」はその夏の甲子園で演奏された校歌全般を批判している。

試合が終る、両校選手があいさつをかわす。勝ったほうのチームが残って一列にならぶ。校歌が奏される。高校野球に独特な儀式だが、テレビの字幕に出る校歌を見ながら、いつも不思議に思うことがある。各高校の校歌が、なぜこう、東も西もよく似ているのかだ▼ほとんど例外なしに、歌詞は「秀麗の山、水清く」と叙景からはじまる。少しずつ表現は変るが、きまって空は高く、風はかおり、流れは永遠なのだ。山や川の固有名詞をふせたら、北国のＡ高校と南国のＢ高校と、おそらく校歌をとりかえても、わからないだろう。▼叙景もだが、精神に個性が欠ける。理想、真理、知恵、信義、まこと、力、きよき心。抽象的で、のっぺらぼうであとは「熱血もゆる健児らよ」「希望の空あかるく」「星は行くてに輝き」「ああ、とこしえに栄光あれ」。よくもまあ似たものよ、と驚く。▼歴史の古い高校が、古い校歌を変えないのかもしれない。新しい高校も、校歌となると古めかしく作ったりする。もともと校歌とはこういうものなのか。それとも今の高校教育が画一的だからか。あるいは新しい独創的な校風と校歌を持っている高校が、まだ甲子園に出てこないのか▼「さらさら論争」というのが教育界にあった。ある教科書が「川が流れていく。さら、さるる、ぴるぽる、どぶるん、ぼん」という子どもの詩を掲載しようとした。ところが「川は、さらさらと流れるべきだ」と文部省が反対して、この詩は教科書にのらなかった。小川さらさら、雪はこんこん式の校歌のつまらなさだと思う。いちど新校歌制定に生徒を参加させてごらんなさい。高校生のほうも、きっと自分の歌をほしがっている。

済美高校のように校歌とは別に学園歌を作成、作新学院のように創立百周年を期に第二学院歌を作成した学校もある。また人口減の影響で学校の統廃合が進み、新たな校歌が作成されることも増加するだろう。

校歌のない東京大学は平成 16 年に校歌等検討会を設置し、新たな校歌の制定について学生・教職員並びに卒業生まで広く意見を求めた。意見は分かれ、現在定着している応援歌の「ただ一つ」及び東京大学運動会歌「大空と」を「東京大学の歌」として位置づけ、式典や応援などその場の状況に応じて使い分けることとなった。そして、引き続き「東京大学の歌」として新しい歌を募集することも視野に置くこととなった。いざ新校歌を制定

しようとすると数々の問題があるようだ。校歌に思いを寄せる人が多く、「天声人語」が言うほど簡単ではないようだ。

４．まとめ

校歌は入学式、卒業式、運動会等の式典で歌われているが、同窓会や結婚式で肩を組みながら歌う姿もよく見かける。校歌が在校生、卒業生双方のものであることを示す象徴的な言葉に「母校」がある。調査した 86 校の中で 21 校（北照･八戸光星･聖光学院･作新学院･前橋育英･浦和学院･習志野･中央学院･法政二･常葉菊川･愛産大三河･佐久長聖･敦賀気比･明星･浪商･智辯和歌山･鳥取城北･高知･折尾愛真･佐賀商・熊本星翔）で使われている。

辞書には

ぼこう〔母校〕その人の学び卒業した学校。出身校。

とある。しかし最近の辞書では下記となっているケースがある。

ぼこう〔母校〕その人の学び卒業した学校。出身校。②自分が学んでいる学校

校歌の作詞者は当該校の卒業生であることも多い。卒業生ではなくとも年齢的には高校は既に卒業している年齢である。「出身校」の意で「母校」という言葉を用いたのは不思議ではない。その「母校」という言葉を、在学中に何度も歌い続けることによって「自分が学んでいる学校」の意が加わったと考える。

校歌は在校生だけのものではなく､卒業生だけのものでもないことは述べてきた｡「校歌」を基点に考えると、未だに「卒業」をしていないと言える。だからこそ甲子園球場のアルプススタンドで、在校生も卒業生も肩を組んで、声高らかに校歌を歌えるのだ。

最後にお世話になっている言語文化研究所に感謝を込めて、僭越ながら所歌を作ってみた。

一、

武庫川の　清き流れに　棹をさし
理想の未来　切り開く
絆　太める　ことのはに
愛する友と　めぐり合う
ああ　我らの言語文化研究所

二、

穏やかな　鳴尾の浜の　朝ぼらけ
叡智の光　あざやかに
心を穿つ　ことのはに
かけた情けは　戻りくる
ああ　我らの言語文化研究所

三、
武庫山を　はるかに望む　学び舎に
歴史の重み　揺るぎなし
移ろいかわる　ことのはを
守り続ける　力湧く
ああ　われらの言語文化研究所

調査した高校
駒澤大学附属苫小牧（北海道苫小牧市）、旭川大学（北海道旭川市）、北照（北海道小樽市）、八戸学院光星（青森県八戸市）、花巻東（岩手県花巻市）、金足農業（秋田県秋田市）、羽黒（山形県鶴岡市）、仙台育英学園（宮城県仙台市）、聖光学院（福島県伊達市）、常総学院（茨城県土浦市）、取手第二（茨城県取手市）、土浦日本大学（茨城県土浦市）、作新学院（栃木県宇都宮市）、前橋育英（群馬県前橋市）、桐生第一（群馬県桐生市）、花咲徳栄（埼玉県加須市）、浦和学院（埼玉県浦和市）、習志野（千葉県習志野市）、銚子商業（千葉県銚子市）、木更津総合（千葉県木更津市）、中央学院（千葉県我孫子市）、二松學舎大附属（東京都千代田区）、日本大学第三（東京都町田市）、早稲田実業（東京都国分寺市）、帝京（東京都板橋区）、桜美林（東京都町田市）、慶應義塾（神奈川県横浜市）、横浜（神奈川県横浜市）、東海大学付属相模（神奈川県相模原市）、桐蔭学園（神奈川県横浜市）、法政大学第二（神奈川県川崎市）、山梨学院（山梨県甲府市）、常葉大学附属菊川（静岡県菊川市）、愛知産業大学三河（愛知県岡崎市）、愛知工業大学名電（愛知県名古屋市）、中京大附属中京（愛知県名古屋市）、大垣日本大学（岐阜県大垣市）、中越（新潟県長岡市）、佐久長聖（長野県佐久市）、高岡商業（富山県高岡市）、星稜（石川県金沢市）、敦賀気比（福井県敦賀市）、近江（滋賀県彦根市）、龍谷大附属平安（京都府京都市）、大阪桐蔭（大阪府大東市）、ＰＬ学園（大阪府富田林市）、興国（大阪府大阪市）、明星（大阪府大阪市）、大阪体育大学浪商（大阪府泉南郡）、近畿大学附属（大阪府東大阪市）、育英（兵庫県神戸市）、報徳学園（兵庫県西宮市）、東洋大学附属姫路（兵庫県姫路市）、明石商業（兵庫県明石市）、天理（奈良県天理市）、奈良大学附属（奈良県奈良市）、智辯学園和歌山（和歌山県和歌山市）、箕島（和歌山県有田市）、創志学園（岡山県岡山市）、広島商業（広島県広島市）、広陵（広島県広島市）、鳥取城北（鳥取県鳥取市）、益田東（島根県益田市）、柳井（山口県柳井市）、下関国際（山口県下関市）、池田（徳島県三好市）、鳴門（徳島県鳴門市）、松山商業（愛媛県松山市）、西条（愛媛県西条市）、済美（愛媛県松山市）、明徳義塾（高知県須崎市）、高知（高知県高知市）、高知商業（高知県高知市）、西日本短期大学附属（福岡県八女市）、三池工業（福岡県大牟田市）、折尾愛真（福岡県北九州市）、沖学園（福岡県福岡市）、佐賀北（佐賀県佐賀市）、佐賀商業（佐賀県佐賀市）、創成館（長崎県諫早市）、東海大学付属熊本星翔（熊本県熊本市）、津久見（大分県津久見市）、藤蔭（大分県日田市）、日南学園（宮崎県日南市）、鹿児島実業（鹿児島県鹿児島市）、興南（沖縄県那覇市）

開講場所：武庫川女子大学言語文化研究所　研究所棟　I－609

開講日時：

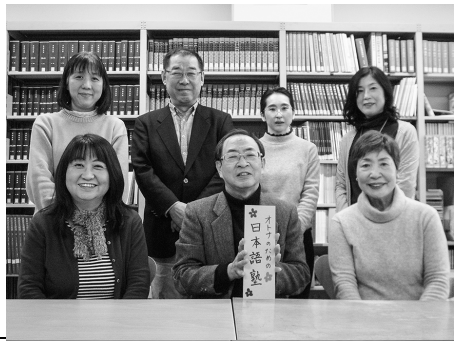
第１回　2018 年 5 月 26 日(土)
10 時 30 分～12 時 30 分

第２回　2017 年 9 月 22 日(土)*
10 時 30 分～12 時 30 分

第３回　2018 年 10 月 27 日(土)
10 時 30 分～12 時 30 分

第４回　2019 年 1 月 26 日（土）
10 時 30 分～12 時 30 分

第５回　2019 年 2 月 9(土)
10 時 30 分～12 時 30 分



* 7 月 7 日（土）を予定していたが、台風第 7 号による大雨等のため延期。

企画・開催　佐竹秀雄（本研究所研究員）　岸本千秋（本研究所助教）
レポート指導　佐竹秀雄　岸本千秋
開催補助　向井弥生（本研究所職員）

オトナのための日本語塾
レポート集　2018

刊行　2019 年 3 月 31 日
編集　佐竹秀雄　岸本千秋
〒663-8558　兵庫県西宮市池開町 6-46
武庫川女子大学言語文化研究所
電話　0798(45)3536
FAX　0798(45)3574
Mail　ilc@mukogawa-u.ac.jp
URL　http://www.mukogawa-u.ac.jp/~ILC/
発行　武庫川女子大学言語文化研究所
印刷　大和出版印刷株式会社